

2015<sup>10月</sup>



# 原水協通信

日本原水爆禁止日本協議会

発行人 赤松宏一

毎月1回6日発行

頒価 220円

電話 (03)5842-6031

FAX (03)5842-6033



原水爆禁止大阪府協議会 大阪府中央区谷町7-3-4 新谷町第3ビル210号 tel(06)6765-2552 fax(06)6765-2837

## 「国連軍縮週間のつとめ」成功させよう!



●マーシャル諸島での水頭症の少女

一九七八年、SSD1(第一回国連軍縮特別総会)が開かれ、世界の国々は、アメリカとソビエトの果てしない軍拡競争を抑制しようとしてきました。地球上には六万発以上の核兵器が存在し



「国連軍縮週間のつとめ」は歴史的取り組み

「国連軍縮週間のつとめ」が、十月二十四日(土)に迫っています。被爆七十年の歴史的節目に当たる今年の「国連軍縮週間のつとめ」は、二〇二〇年NPT再検討会議に向けての新たな出発に向けた取り組みとなります。大阪うたごえ協議会のみなさんの平和の歌声でオープニング。世界的ジャーナリスト・豊崎博光さんの「核兵器は人類と共存できない」のテーマで、核実験などによる「地球丸ごと被曝」の実態をパワーポイントを使つての講演に期待の声寄せられています。

ていきました。大阪から国連 大阪原水協の三十六年の適用し、数名の代表団の入国を拒否し、カナダに入国せざるをえませんでした。この年の十月、第一回「国連軍縮週間のつとめ」が開

かれました。この集会は、歴史がある取り組みとなっています。核兵器を告発する 世界的ジャーナリスト

講演していただく豊崎博光さんのお話に、期待の声寄せられています。豊崎さんは、二十五歳から世界の核実験場、ウラン採掘現場を取材し、「核兵器は人類と共存できない」ことを、世界にアピールし続けてきました。核兵器や原発を動かす原料となるウラン採掘現場を取材。オーストラリア、アメリカ、南アフリカ、メキシコ、カザフスタンなどを歩いて取材活動をし

ました。ウラン採掘の時点から人々を被曝させている実態があると訴えています。とりわけ、生活を保障されていないネイティブの住民やアボリジニの人々(オーストラリア)の人々が見捨てられている現実があるそうです。

マーシャル諸島には幾度となく通り、広島・長崎の原爆投下の翌年の一九四六年からアメリカが核実験をやり続けたその被害を取材続けました。

とりわけ一九五四年のビキニ環礁での「キヤツスル作戦」ブラボー爆弾(広島型の一〇〇〇倍の威力)の被害は、日本列島にも放射性降下物がまきちらされたといえます。その後一九六二年の

アメリカの水爆開発、そして翌年のソビエトの水爆開発と、大気圏での核実験総回数、二一五八回にも及びました。一九八二年に開発されたソビエトのツァリボムは、広島型の三三〇〇倍の威力を持つ水爆であり、その実験で地球全体を汚染しました。豊崎さんは、三大学で客員教授を務め、学生に平和の大切さを訴え続けています。学生からも好評の声もあがる講演内容です。

## 世界的ジャーナリスト・豊崎博光氏講演迫る

○10月24日(土)

○午後1時30分

～午後4時

○大阪社会福祉指導

センター



9月19日、午前2時18分、安倍政権は、日本列島轟轟たる「戦争法案は廃案に」の国民の怒りの声を踏みにじり、強行採決。大阪原水協を代表して国会に駆けつけた小松事務局長は、SEALD'Sなどの若者と朝まで怒りのコールを叫びました。「民主主義守れ!」「この日を忘れるな!」「選挙に行こう」など、数万人の人々の怒りが、夜が明けても続きました。「自分の意志で、この国会に来て、自分を表現している」の声の若者が圧倒的に多く、そのエネルギーが爆発した瞬間でした。多くの若者が「これで終わったのではない、これからだ」のシャウトも続きました。

9月25日、2年目を迎えた「国際核兵器廃絶デー」の署名宣伝行動が上六・近鉄デパート前で行われました。大阪府下20地域で、この「国際核兵器廃絶デー」が9月25日、26日の二日間取り組まれました。2013年、国連で初めて核軍縮に関するハイレベル会合が開かれ、非同盟諸国から「会合が始まった9月26日を国際核兵器廃絶デーにして、全世界で核兵器廃絶の目標に迫っていこう」と提案され、2014年から始められたものです。大阪平和委員会など5団体11名で署名65筆が寄せられました。「戦争法には反対で、廃案にすべきです」と話をしながら署名に応じてくれる方が多く、核兵器も戦争もない世界を、の声が多い署名宣伝行動でした。



10月は、「ノーモア・ヒバクシャ訴訟」の重要な月となっています。10月5日、長崎で爆心地4キロで入試被爆された方の意見陳述が行われました。大阪地裁で「原爆症認定」の判決があったものの、これを不服とする国側が大阪高裁に訴えた控訴審です。「甲状腺機能低下症」と原爆による起因性を裁判所が認めた判決でも、このように国側が新たな裁判を起こす理不尽な控訴審が続いています。10月29日午後2時、やはり国側が控訴した被爆者の大阪高裁82号法廷で、判決が出されます。午後3時には、東京地裁で17名の判決が出される予定です。翌30日には、全国弁護団による国会要請行動と取り組みが続きます。